

第3回 廃炉研究開発連携会議 議事要旨

日 時 平成 28 年 4 月 18 日 15:00～17:30

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF) 第二大会議室

1. 廃炉研究開発連携の強化に向けた具体的な取組の進捗状況

事務局より「基本的方針」及び「取組の方向性」を踏まえた取組状況及び今後の計画について説明があった。

2. 関係機関による研究開発及び人材育成の取組

各機関から、「取組の方向性」における「研究開発ニーズ・シーズに関する双方向の情報発信・共有と基盤構築」に基づき、昨年度の実績及び今年度の活動等について説明があった。これらに対する主な意見は以下の通り。

- 大学において、直接関与している研究者以外は現場のニーズを把握できていない。現時点で提示可能な形で何らかのニーズを提示していくことが研究者のモチベーション向上につながる。
- 他方、思いつく以上のニーズは、見つけようとしなければ見つからない。トップダウンの取組に加え、廃炉基盤研究プラットフォーム（以下、PF という）活動において基礎・基盤研究マップの原案を作成したところであり、これを更新していくことにより、基礎基盤側からのアプローチを増やし、取組の裾野を広げていくこととしている。ニーズをあぶりだしていくことも必要。
- ニーズを適切に伝えるには、全体像を示した上で時間軸を含めた前提条件の説明が必要であるものの、現状は実現が難しい。現場ニーズの全体像や各分野でのニーズを自発的に捉える活動が広がることを期待。

3. 研究開発ニーズ・シーズのマッチングに関する取組

各機関から、事例分析、マッチング体制及び情報ポータルサイトの整備状況について説明があった。これらに対する主な意見は以下の通り。

- 多くのニーズが認識されつつある一方、対応するシーズが少ない。シーズの数、基盤の厚み、取組の広がりを確保することが重要であり、PF 活動において取組んでいく。
- 個々の技術課題の上位にあるシステムに関するニーズがわかりづらく、どのように取組むか判断することが難しいため、知恵を絞ることが必要。他方、廃炉のブレイクスルーとなりうる単一の技術に対しても目を配っていくことが必要。
- 取組の裾野を広げていくためには、例えば以下の取組がありうる。
 - 福島第一原発廃炉関連トピックスを扱う取組の参加者を増やし、そこからさらに別の分野等に広がりを持った取組を促し、PF 活動を活性化していくこと。PF 活動のうち福島リサーチカンファレンスに関する取組はこれを目指すもの

- 具体的な課題、期限、予算規模などを提示した上で、各種協議会においてコンペティションによりチャレンジを促したり、公募提案などにあるような負担がない形によりシーズ提案を促したりすること
- 福島第一原発廃炉に関する課題を、シーズを保有しうる研究コミュニティの関心事項に位置づけてもらうこと
- 公募事業に提案いただいたが不採択となった研究者に対しても、引き続き廃炉研究に興味を持ち続けてもらうため、継続してフォローしていくこと

最後に議長より、以下の通り総括があった。

- 本会議として、本日説明があった「廃炉基盤研究プラットフォーム」における JAEA や東京大学を中心としたマッチングに関する活動を奨励・支援したい。
- また、NDF にマッチングのためのタスクフォースを設け、東京電力、JAEA をはじめとした専門家の参加を得て、議論を進めたい。

以 上